

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①「自立と社会参加」をめざし、子どもたちの主体的対話的で深い学びを実践する ②組織的な授業改善を行うとともに、専門性の向上を図る	①子どもの「できた」を引き出す授業を実践する ②授業改善を進め、専門性の向上を図る	①アセスメントによる個別教育計画を基に、PDC Aサイクルにより、目標の見直しに取り組む ②教科やテーマに沿った授業検討会を実施する。学習会・研修会を実施する	①一人ひとりの子どもの「できた」の姿を明確にし、授業を振り返ることができたか ②教科やテーマに沿った授業検討会、学習会・研修会を実施することができたか	①個別教育計画を参考に授業の目的や内容を設定し、子どもの「できた」を想定して展開する授業が見られた ②教科やテーマに沿った授業検討会を実施した 授業改善研修2回、夏の公開研修会(6講座)、講演会、ICT活用研修会、他部門紹介研修、さがちゅうゼミ3回、教材教具展等を実施した	①「できた」の姿の想定や個別教育計画との関連の仕方に差が見られるので、今後も継続して周知意識の定着に取り組んでいく ②引き続き、教科やテーマに沿って視点をおさえた授業検討会を行っていく 後期に計画している研修についても、円滑に実施していく	①教員からのアンケートから評価し、次年度の取組について考えられている ②役割分担や見える化等に工夫し、授業改善につなげられている 保A B C D 未 70% 25% 3% 1% 1% 教A B C D 未 30% 57% 9% 2% 2%	①子どもの「できた」を引き出す授業を実践し、その理由や改善点についても考えることができた ②教科やテーマに沿った授業検討会は、共通の視点をもつことで充実した授業検討会となり、授業改善につながった。研修会、講演会、学習会等の実施により専門性の向上を図ることができた	①授業の実践や振り返りへの取り組みに対する差を無くし、学校全体で「できた」を引き出す授業の実践を図っていく ②引き続き組織的な授業改善を行うと共に、専門性の向上を図っていく
2	幼児・児童・ 生徒指導・支援	①ICT機器の利活用により、一人ひとりのニーズに応じた教育を実践する ②高度化、複雑化する医療的ケアについて、安全に実施する校内体制の整備をすすめる	①一人ひとりのニーズに応じた端末活用の実践を進め、学びの充実を図る ②通学支援を利用して、安全に通学することができる体制の整備をすすめる	①ねらいをおさえた端末の活用や効果的な電子黒板の活用を進める ②訪問看護や福祉車両等の事業所と連携し、安全な通学支援事業を実施する	①ねらいをおさえた端末の活用や効果的な電子黒板の活用を實踐し、成果を共有することができたか ②訪問看護や福祉車両等の事業所と連携し、安全な通学支援事業を実施することができたか	①校内研修会や学習会を実施し、実践報告や端末の活用方法、電子黒板の活用方法、アプリの紹介や活用例、スイッチ活用等について共有することができた ②通学支援事業を実施している生徒について、関係機関と情報共有する場を作り、安全な通学支援事業を実施することができた	①引き続き、端末や電子黒板の活用の事例やアプリの紹介等、情報の共有を行い、ねらいをおさえた端末活用や効果的な電子黒板の活用につなげていく ②引き続き、必要に応じて関係機関との連携を進め、安全な通学支援事業を実施していく	①ICT機器の活用は、参考にしたい 保A B C D 未 53% 36% 6% 2% 3% 教A B C D 未 20% 60% 16% 2% 2% 保A B C D 未 61% 32% 3% 1% 3% 教A B C D 未 31% 52% 7% 6% 4%	①実践共有や活用に関する情報を共有することで、ねらいをおさえた端末活用や電子黒板の活用が進んだ。さらに子どものニーズに応じた端末活用や電子黒板の活用を進め、学びの拡充を図る ②今年度入学児童について、新規で福祉車両利用の通学支援事業の実施が始まった。利用児童生徒や利用回数が増えることで、事業所との丁寧な情報共有が必要となる	①引き続き研修会や学習会、実践共有や情報共有を積み重ねから、一人ひとりのニーズに応じた端末活用や電子黒板の活用を進め、学びの拡充を図る ②保護者・事業所・学校の三者間で、児童生徒の体調や通学方法等の情報共有を綿密に行っていく
3	進路指導・支援	①子どもたち一人ひとりの生活の充実をめざし、発達段階に応じた一貫した教育を行う ②将来を見据えた地域生活充実のため、余暇活動、障がい者スポーツを促進する	①卒業後の過ごしをイメージした学習の充実を図る ②地域資源をいかした余暇活動の充実を図る	①動画教材等を使用し、成長していくことや社会生活に必要なスキルの獲得に向けた支援を実施する ②作品展や地域のフェスタ等に参加する。第4回ぎんがボッチャ大会を開催する	①成長すること、社会生活に必要なスキルを理解することができたか ②余暇活動に参加することができたか。ボッチャ大会を開催することができたか。	①進路学習で役立つように、動画を載せた進路支援専用サイト「進路ステーション」を開設した ②積極的に相模原地区の作品展や地域のフェスタに児童生徒の作品を出展し、そのことを本校保護者や地域に発信することに努めた	①支援サイトは始めばかりであり、周知や実践の中で課題を確認し、より利用しやすいものにしていく ②それぞれの展示学年と連携を十分にとることで、作品の展示が充実したものにしていく ぎんがボッチャ大会の開催を充実したものに	①進路ステーションを授業に活用していくことは良い取組である 保A B C D 未 43% 39% 15% 2% 1% 教A B C D 未 26% 59% 11% 2% 2% 保A B C D 未 46% 44% 7% 2% 1% 教A B C D 未 17% 47% 29% 4% 3%	①進路支援サイトは、掲載動画を生徒が気軽に見返し、授業の理解を補足できる教材として役立っている。活用についてはまだ十分に浸透していない ②ぎんがボッチャ大会は、卒業生も含め継続して参加する方が増え、地域に定着してきた。余暇活動の幅を広げていくことが課題である	①進路支援サイトの授業内での活用場面を増やし、進路説明会等で活用例を紹介し、身近なツールとして周知して行く ②ぎんがボッチャ大会の継続実施と共に夏季研修会で新しいパラスポーツの紹介を行っていく

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月2日実施)	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①地域社会と連携しながら、社会性を育む ②共生社会づくりの実現に向けた地域のインクルーシブな環境づくりを推進する	①地域の学校と連携・協力し、子どもの社会性を育む教育の充実を図る ②センター的機能の充実を図る	①居住地交流や学校間交流を実践する ②地域の学校や関係諸機関へ、ニーズに応じた助言や支援を行う	①目的をおさえた交流を実践することができたか ②ニーズに応じた相談、支援を行うことができたか	①学校間交流では、共和小学校や平塚盲学校と連携を取り合い、子ども同士の触れ合いや必要な学びの場を大切にしながら授業を行っている ②寄せられた保育園・近隣小中学校からの相談に対して、ニーズを丁寧に聞き取り、必要な助言ができるように努めた	①より充実した交流になるように、事前の話し合いや振り返りを行い、そのことを相手校と連携しながら次年度の交流に生かしていく ②必要なニーズについて、アンケートを作成し、近隣小学校にも協力していただき、地域のセンター的機能の発揮に生かしていく	保A B C D 未 61% 31% 6% 1% 1% 教A B C D 未 27% 50% 17% 3% 3% ②保護者や教職員がインクルーシブにどのようなイメージを持っているのか、今後どのように取り組み評価していくのか期待する 保A B C D 未 46% 42% 9% 1% 2% 教A B C D 未 21% 55% 18% 3% 3%	①学校間交流では、各児童が相互理解を図れるよう目的を設定し実施した。交流で得られた相互理解を日常的な連携や継続的な関わりにどう繋げていくかが課題である ②近隣小中学校3校にアンケートを実施し検証考察を行いニーズの把握に努めた。「巡回相談」に対し一定の評価を受けることができたが、課題も明らかになった	①交流を行った学校と今年度の振り返りを行い、見通しを持った交流ができるように連携を深めていく ②市の教育委員会と情報交換会を行い、地域の学校のニーズについて共有し、連携を取りながらセンター的機能の充実を図る
5	学校管理 学校運営	①信頼と期待に応える学校づくりを推進する ②安全で安心な教育環境の整備に取り組む ③計画的、組織的な危機管理体制の整備をすすめることで、学校安全を推進する ④不祥事防止の徹底を図る ⑤教職員の働き方改革を推進する	①学校の様子や取組みを発信することに加えて、保護者から教育活動の理解を得る ②災害時に、安全で安心して過ごすことのできる環境の整備に取り組む ③不審者侵入防止対策等、危機管理体制の充実を図る。 ④取組みを継続し、気づいて伝えあう関係性と人権意識を高める ⑤授業準備や教材研究の時間を確保することで教員同士の連携を促し、より良い授業を行うことのできる環境にする	①年間で2回、授業参観日を設定する。普段の授業参観について周知する ②災害時に使用する物品の確認や設備の使用方法について、全職員で共有する ③関係機関と連携して、不審者対応訓練に取り組み、全職員で対応方法を共有する ④定期的な研修会、各種会議に継続して取り組む ⑤新教育課程の検証を実施する	①授業参観をとおして、学校の教育活動について理解していただくことができたか ②災害時に使用する物品の確認や設備の使用方法について、全職員で共有することができたか ③組織的に対応することができたか。今までの取組みに加え、専門家の視点を取り入れることができたか ④気づき、伝え合うことができたか ⑤朝の打合せの時間を有効に活用することができたか	①授業参観日を通して、日頃の教育活動について理解していただくと共に、アンケートで感想や要望について意見を聞くことができた ②夏季休業期間に消火栓・消火器の使用体験、防火シャッターの作動体験、発電機・蓄電池の確認等を実施し、全職員で使用方法について共有することができた ③相模原警察より講師を招き、不審者対応訓練を実施した。不審者への基本的な対応を学び、1学期に実施した不審者対応訓練をビデオで振り返り、実際の場面を想定して対応方法を考えることができた ④様々なテーマで研修会を設定し、気づきのアンテナや人権意識を高めることに努めた ⑤朝の9時までの時間に当日の体制や授業内容の確認等を行うことができ、大変有効に活用することができた	①今後も開かれた学校を目指し、保護者には、各学部で計画したオリジナルの行事などに積極的に参加していただく ②避難訓練などの際に実際に火災報知器や防火シャッター等を活用し、訓練の中での動きを確認していく ③2学期の不審者対応訓練は日時を特定せずに実施する。不審者が校内に侵入するという想定で行い、研修での助言を生かしていく ④引き続き、継続して取り組んでいく。組織的に報告・連絡・相談を行い、気になることへは迅速に対応していく ⑤引き続き、有効に活用していく	①それぞれ学校に求めるものが保護者によって違う中で、これだけの高い評価を得ていることに感じている 保A B C D 未 69% 22% 6% 2% 1% 教A B C D 未 39% 50% 9% 1% 1% 保A B C D 未 69% 26% 3% 1% 1% 教A B C D 未 36% 52% 9% 1% 2% 保A B C D 未 70% 24% 3% 2% 1% 教A B C D 未 38% 52% 7% 2% 1% 教A B C D 未 24% 38% 28% 9% 1% ※全体を通して、全教職員が同じ目標に向かって取り組んでいくことが大切である	①間で2回、授業参観日を設定することができた。授業参観日を通して、保護者の思いを知ることができた ②火災報知器や防火シャッター等を活用した避難訓練を実施した。1階自立活動室前の防火シャッターが作動した際の避難経路を確認しながら避難することができた ③2学期に日時を指定せずに不審者対応訓練を実施した。不審者に対応する教員の中でリーダーを決め、リーダーの指示に沿って不審者に対応する訓練を実施することができた ④気づきのアンテナや人権意識を高めることができた。伝え合う環境づくりが課題である ⑤朝の9時までの時間に当日の体制や授業内容の確認等を行うことができた	①開かれた学校を引き続き目指して、授業参観日を設定していく ②2階階段前の防火シャッター作動時は階段側の扉からは入れない構造のため、避難経路や教員が応援に行く際の経路を確認する必要がある ③直接不審者に対応した教員については、対応時の課題等を振り返る必要があった。来年度は振り返りの時間を確保し、反省を共有する ④引き続き組織的に報告・連絡・相談を行い、気になることへは迅速に対応していく ⑤引き続き、有効に活用していく